

2011年10月20日

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人 あゆみの家

代表 尾根 清美

1. プロジェクト名

第6回 あゆみの家 重度肢体不自由者(児) ホテル宿泊体験

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

あゆみの家で子ども達が生活訓練を重ね、少しずつであるが成果が見える。しかし親も年をとってきていて、急病で突然介護ができなくなったり、突然死などで子どもの面倒が見れなくなり、仕方なく病院や施設に預け、他人の中での生活をしていかなければならない例が現実に数例出ています。日々の生活訓練で親が居なくても生活していけるように少しずつ体得していかなければならない、その為にも環境の違った外での宿泊訓練が必要とされる。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

23年9月、昨年と同じ宿泊地、山梨県かんぼの宿石和にて一泊宿泊訓練を行ないました。毎年の訓練同様、あゆみの家の親子、パートさん、ボランティアさんと入浴・食事・宿泊訓練を行ないました。あゆみの家での生活訓練そのまま場所を変えての実施で、子ども達が違う環境でもいつもの状態で訓練出来る事。今年も、食事形態、一口大食・きざみ食などホテルにお願いした。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

昨年と同じ場所での宿泊でしたが、今年は部屋を3階にまとめてもらい、パートやボランティアさんの介護の移動を最小限にし、子ども達の近場ですぐに動け、介護が行き届いた。男性ボランティアが3人でしたので、男子の入浴・トイレ介助・車イス介助と力を貸してもらい本当に助かりました。ボランティアさんの宿泊費・パート代などもあり、今年の参加費を見積より多くしました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

ホテルでは、回を重ねることにより、スロープや車椅子のまま食事ができる様にホテル側の配慮が見られるようになった。普段とは違う環境で気分転換でき、精神的に安定が見られ、混乱も無く過ごすことが出来ました。見学先では、トイレの段差、スロープなど不便な所が多少あり、まだまだ障害者には不便が感じられました。年齢的に介護が困難になっている親や、体調の悪い親が多くなってきているので、まだまだボランティアの確保が必要だと感じました。しかし、毎年続けて行く事の大事さ、将来ケアハウスを建てて行こうと意思を固めたあゆみの会員たちですので、これからもこの事業を続けて頑張っていきたいと強く実感しました。今年も宿泊訓練が出来て本当に良かったです。ありがとうございました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

ハイジの村

